

才五十八師団野戦病院略歴

才五十八師団野戦病院本部調製

年月日	概	要
自昭一七、三、二五	鹿兒島県鹿兒島市 編成完結	
自一九一、三、一〇	才三次漢水河孟の警備並戦斗	
自一九四、四、二一	湖北省蕩口鎮に患者療養所を開設す	
自一九五、五、一〇	長沙攻略作戦	
自一九五、五、一八	湖北省羅漢寺に患者療養所開設す	
自一九五、五、二〇	湖北省草市に患者療養所開設す	
自一九六、五、二八	湖北省沙市に患者療養所開設す	
自一九六、六、二二	湖南省黄泥 に野戦病院を開設す	
自一九六、六、二八	衡陽攻略作戦	
自一九六、八、二一	湖南省長沙に野戦病院を開設す	
自一九六、八、二二	湖南省茶音 に野戦病院を開設す	
自一九七、七、三〇	湖南省板橋鋪に野戦病院を開設す	
自一九七、七、三〇	衡山野戦病院を開設す	
自一九八、八、二二	湖南省柳家塘に患者療養所を開設す	
自一九八、八、二二	湖南省均家均に野戦病院を開設す	
自一九八、八、二二	湖南省龍家町に野戦病院を開設す	

年月日	概	要
自胎一九八〇	全県作戦	
自一九九一	全県謙山村患者療養所を開設す。	
自一九九一	全県鹿嶋村に患者療養所を開設す。	
自一九九一	全県黄砂鋪に患者療養所を開設す。	
自一九九一	全県斗酒村に野戦病院を開設す。	
自一九九一	桂柳作戦	
自一九九一	(桂柳攻略作戦除く)	
自一九九一	全県大口岸に野戦病院を開設す。	
自一九九一	全県殿岡守保に患者療養所を開設す。	
自一九九一	桂林攻略作戦	
自一九九一	全県省靈川県定江衛に野戦病院を開設す。	
自一九九一	全県省桂林に野戦病院を開設す。	
自一九九一	全県省張家に患者療養所を開設す。	
自一九九一	全県省陽に患者療養所を開設す。	
自一九九一	桂林附近の警備	
自一九九一	白沙塘岩門村患者療養所を開設す。	
自一九九一	桂林全県附近の戦斗	
自一九九一	全県省義寧に患者療養所を開設す。	

3 内

昭二〇、八一五 二〇、〇、二五 自 二〇、〇、二四 至 二、六、五	広西省全県黄沙舖に於て停戦。以降復員の為策詰に向う行軍。 策詰地湖北省黄梅県孔灘鎮到着爾後同地附近に在りて復員業務。 湖北省黄梅県孔灘鎮及黄梅に野戦病院開設す。 内地山口県仙崎港上陸。
--	---

(51)

0560

才五十八師田病馬廠略歴

年月日	概要
昭二七.三.二八	編成
	<p>中華民國湖北省應城果沱城 縮成完備より</p>
一九四三	<p>沱城附近警備</p>
	<p>此の間沱陽作戰 江北殲滅作戰 江南殲滅作戰 才二次南部大洪山附近作戰参加</p>
至一九二五	<p>長沙衡陽全果桂林柳州攻略作戰参加</p>
至一九二五	<p>桂林附近警備</p>
至一九二五	<p>桂林全果附近の戦斗参加</p>
至一九二五	<p>全果に於て停戦及黄海に於て復員業務</p>
二一六.八	<p>上陸</p>
二一六.三五	<p>復員完結</p>

13 外

(52)

0561

独立混成歩二十二旅団司令部略歴

部隊長 陸軍少将 米山 米鹿

年月日	概	要
昭一七.三.三	軍令陸甲歩一〇七号に依り独立混成歩二十二旅団編成下令	
一七.三.三	編成業務に着手	
一七.三.七	<p>本東省本東市に於て編成完結</p> <p>部隊名</p> <p>独立混成歩二十二旅団司令部</p> <p>部隊要官氏名</p> <p>陸軍少将 米山 米鹿</p> <p>編成完結の状況</p> <p>人員 部隊長米山少将、参謀新村中佐、参謀一欠員は本科将校を以て充足す</p> <p>部隊将校十六名、准士官一名、下士官三十名、兵七十六名、軍医一名</p> <p>にして編成、定員に対し衛生下士官五名、一般兵一名、兵技兵一名の不足なり、</p> <p>馬匹、定数充足す</p> <p>兵器資材、兵器は定数充足せるも程度稍不良にして中以下なり</p> <p>諸器材及兵器修理用資材も概ね充足せられ完備す</p>	

年月日	概	要
自昭一七、三、三二 至一九、三、三二	広東省広州市附近の警備	
自一九、四、二二 至一九、六、二二	広東省新会県江内附近の警備	
自一九、六、二四 至一九、九、二七	「十」号作戦に参加	
一九、三、二五	第十一軍指揮下に入る	
二〇、六、一〇	第十一軍隷下に編入せらる	
自二〇、六、二九 至二〇、八、一六	第十一号作戦に参加	
二〇、八、一七	広西省全県黄沙舖に於て停戦命令受領	
自二〇、八、一八 至二〇、一〇、一八	湖南省九江果九江地区に集結のため行軍	
自二〇、一〇、二九 至二〇、一〇、二九	湖北省広済果吳国英に於て復員準備	
二一、五、二二	上海に向い吳国英出発	
二一、六、三	上海着	
二一、六、一八	内地帰還のため上海出帆	
二一、七、一三		

(54)

0563

独立混成隊第二十二旅団滯留部隊略歴

部隊長官氏名 陸軍大尉 北野孝信

行動の概要及其日時

当滯留部隊は黄岡果黄岡に於て未追及補充要員並に退員患者を以て編成し、独立部隊に準じ主力と分離し復員する部隊にして、復員前上海に於て更に退院患者を伴せ編成したる部隊なり。

北野大尉以下百三十四名、篠原少尉以下二百五十五名へ未追及補充要員並退院患者（夫々武昌及揚子を出発、

湖北省黄岡果黄岡地区に集結滯留部隊を編成

独歩百二十六大隊津村曹長以下十名、武昌百二十八兵站病院に入院

独歩百二十五大隊中村探退院

帰還の左少北野大尉以下三百三十五名、遺骨十四柱、江筆丸に乗船出航す（

昌百三十八兵站病院入院十名、黄岡百八十一兵站病院入院八名を含ます）

集計以未死七計三十七名

入院及死亡者中遺骨十四柱を除く以外は上海に於て主力部隊連絡者を残置す、

南京到着列車輸送に依り上海向出発

上海到着

独歩百六十六大隊尾高軍曹以下三十二名、百五十九兵站病院に入院

昭二〇、二一、二三

二〇、一、二八

二一、二、三五

二二、三、七

二一、四、九

二〇、二、三八

二一、四、二一

二一、四、二三

二一、四、三三

年月日	概要
昭三、四、一四	独歩大十六大隊長堀中尉以下五十三名 併指揮す
二、四、三	歩百五十七及百五十九兵站病院に入院四九名
二、五、一	上海に於て輸送船貨面艦に乘船 同日出帆
二、五、四	佐世保沖到着
二、五、三	上陸、除隊召集解除す
昭和二十一年五月二十六日	
独立混成歩二十二旅団滞留部隊長	
陸軍大尉	
北野	
孝信	

14 外

(56)

0565

独立歩兵第六十六大隊部隊略歴

陸軍少佐 樋岡信俊

年月日	概要
昭十四、二、二	一、編成完結の状況 中華民國廣東省佛山縣大滘墟に於て編成完結その主力は独立機関銃第六十 一大隊にして後補歩兵第六十五大隊の一部も加へらる編成当時の兵力不詳 大隊長 陸軍少佐 金子秀藏
十四、六、三	一、行動の概要及其の日時 編成完結より昭和十四年十月迄廣東周辺に駐屯 大隊長 陸軍少佐 大瀨戸義樹
十四、十、	廣東省汕頭に移駐
十六、二、	廣東に移駐
十六、三、八	廣東省東莞に移駐
十六、五、五	東江作戰参加
十六、五、三	廣東省東莞に駐屯
十六、六、三	大隊長 陸軍中佐 井上 進
十六、七、二	廣東省汕尾に移駐
十六、十、五	廣東省中山に移駐

年月日	概	要
昭和十七年九月七、 十七、十八、十九、二十、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、十月一日	廣東省廣東に移駐	獨立混成旅二十二旅田錦成下令
	滿洲完結	
	廣東省江門に移駐	
	湘桂依戰參加	
	湖北省武穴に於て停戦及復員業務	
	退院後部隊追及不能者及補充員陸軍中尉加納勇四郎以下三十三名上海出發	
	佐世保に帰還	
	湖北省武穴出發	
	上海出帆	
	鹿児島上陸	
	復員式奉行	

5
十
十一

独立歩兵第77大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十四年二月	編成完結
二十三月十	廣東省河南に於て編成さる 編成改制完結
略歴	廣東省遂溪縣
十四年二月	略歴
六十	の間河南及其の附近の警備
六十	汕頭攻略に参加のため河南出發
六十三	連家島に敵前上陸
十六、十七、十八	の間湖汕地区の警備並に討伐
十六	河南島駆逐のため汕頭出帆
十六	悉英に上陸
十八、二十、二十一、二十二	の間北部海南島の警備並に討伐
二十二	雷州半島駆逐のため出帆同日西營に上陸

15

外

中

支

中

支

中

支

中

支

中

支

中

支

中

支

中

支

中

支

中

	<p>自昭十八、二十、三 至二十九、二 三、三、三 四、一</p> <p>の向雷州半島の警備並に討伐 秀英港出帆 浦賀港上陸 同日復員式終了同一。五二名除隊召募解除せり</p>
--	--

(60)

0569

独立混成隊二十二旅団
 独立歩兵隊七十一大隊
 部隊略歴

年月日	概要
昭十七、十三、十三	一、軍令陸甲第一〇七号独立歩兵隊七十一大隊編成改正下令
十三、十七	中華民國廣東省廣州市に於て独立混成隊二十二旅団独立歩兵隊七十一大隊編成改正発給
十三、十七	大隊長陸軍大佐瀨川正雄以下八一五名
十三、十七	中華民國廣東省廣州市警備
十八、二、九	廣州海進駐屯戦に陸軍中尉本田榮一以下集成一ヶ中隊参加す
十九、三、三	大隊長交代陸軍大佐瀨川正雄補隊十三國境守備隊長陸軍中佐渡辺成則補
	独立歩兵隊七十一大隊長
四、二、	廣東省新会縣北嶺に集結教育訓練並に同地附近の警備
六、九、	湘桂作戦に参加
九、三、	廣東省開平縣單水口に集結同地附近の警備並に討伐
七、一、	廣東省台山縣台山附近の警備並に討伐
九、十四、	新橋墟附近の戦斗
九、十八、	肇慶攻略同日より同地附近の警備
十、十六、	武宣攻略同日より同地附近の警備並に討伐

年月日	概要
昭和三十四	中十一号作戦に参加
八月	停戦詔書発布
八月	復員下令
九月	停戦協定締結
十月	湖北省廣濟縣武穴に於て復員業務
三月	内地佐世保港上陸復員
六月	

6
内
中
長
中
十
一
果

(62)

0571

独立混成隊二十二旅団
 独立歩兵隊百二十五大隊
 部隊略歴

年月日	概要
昭七、三、天	軍令陸甲第百一〇七号独立歩兵隊百二十五大隊編成下令
一、二、六	編成業務着手
三、三〇	山東省済南に於て編成完結
六、一、四	大隊長陸軍中佐田賀五男以下八〇七名 中華民國江蘇省上海に移駐
二、六	廣東省廣東に移駐
三、三〇	新會縣江門に移駐
三、八	廣東に移駐
一、九、三〇	独立歩兵隊八旅団編成下令
四、三	中華民國廣東省新會縣古井に移駐
六、八	卜号前段第一期作戦参加
九、九	第二期
十、三	中華民國廣西省平南縣平南に移駐
三、七	桂平縣桂平に移駐
四、五	平南縣耳竹に移駐

16
外
中支
中十一軍

二〇、八、一四、	停戦詔書發布
一〇三	中華民國江西省廣濟縣武穴に移駐
三、五、三五	復員の越江蘇省上海に移駐
六三	上海出帆
六九	鹿児島上陸

(64)

0573

独立混成隊二十二旅団成立歩兵隊百二十六大隊部隊略歴

年月日	概要
昭十七、十二、十三	軍令陸甲第百七号に基く独立混成隊二十二旅団臨時編成下令
十三、十三	編成業務着手
十三、三〇	中華民國江蘇省南京に於て編成完結
十八、二、五	大隊長陸軍中佐野口義男以下將校二十四名、准下士官八十四名、兵六百九十四名
五、十	中華民國廣東省中山縣石岐移駐
十九、四、五	第一回交代帰還陸軍曹長原島真二以下十二名帰還す
五、五	第一回補充員陸軍曹長石田文雄以下百七十二名到着
六、九	南支名兵団よりの転入補充員陸軍曹長向條義晴以下六十六名到着
九、九	第一期湘桂作戦に参加、戦役人員兵四名
九、九	第二期湘桂作戦に参加、戦役人員下士官一名、兵十五名
十三、九	第三期湘桂作戦に参加
十三、六	廣西省桂平縣潯州に移駐
二十、五、三十	第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百
六、十	湘桂反叛作戦参加の爲武江を遊撃廣西省柳州に向ふ
六、十	第二十三軍司令官の隷下を脱し第二十一軍司令官の隷下に入る
六、十八	廣西省柳州に到着、湘桂反叛作戦に本格的に参加す

年 月 日		概 要
昭 三 十 四	廣西省全昇黃沙河に於て停戦詔書ヲ受す。此の間の戦歿人員將校三名。下士官	五名 兵二十四名
八 、 六	復員下令	停戦協定締結
九 、 二	終戦後の集結地湖北省廣濟縣武穴に行軍を以て致着	閃地滯留の蕪湖北省 武穴出発
十 七	江蘇省上海に致着	上海港出帆
五 、 三	浦賀港上陸	浦賀港上陸
六 、 三		
六 十 八		
七 十 二		

(66)

0575

独立混成隊二十二旅団独立歩兵隊百二十七大隊部隊略歴

陸軍中佐 森田庄作
陸軍少佐 多田輝義

年月日	概	要
昭十七、十一	軍令陸甲ホ一〇七号に依り独立歩兵隊四百二十七大隊編成下令	
十三、十五	編成業務着手	
十二、三十	中華民国江蘇省江寧縣南京編成着結	
	部隊行動の概要	
八、二、十四	中華民国廣東省南海縣九江に移駐	
二、十五	廣州湾進駐作戰に参加	
一〇、一	山田見習士官以下五名補充人員	
十九、四、一	中華民国廣東省新會に移駐	
四、二八	藤崎軍曹以下九〇名補充人員	
六、九	湘桂作戰に参加	
七、二八	藤崎少尉以下一〇名補充人員	
九、二五	中華民国廣西省蒼梧縣梧州に移駐	
二〇、三、一〇	大隊長陸軍大尉多田輝義隊長文代	
五、二七	ホ十一号作戰に参加	

中外 中支 第十一軍

六、二十 七、二七 十、十二 十、二五 三、六、三 六、二三 六、二五	関東軍曹以下三〇名補充人員 竹内軍曹以下五六名補充人員 中華民國湖北省度済県武穴に移駐 末田曹長以下九名補充人員 中華民國江蘇省上海に移駐 鹿兒島上陸 復員式
---	---

独立混成隊二十二旅団独立混成隊二十二旅団山砲兵隊部隊略歴

年月日	概要
昭十七、三十一	軍令陸甲才百七号に依り獨立混成隊二十二旅団山砲兵編成案結
山砲兵隊長陸軍中佐乾新治以下將校十八名准士官三名下士官四名、共三六八名	計四三七名
八、二、二	中華民國廣東省新會縣江門に移駐
自二、六	廣州灣進駐作戰に参加
至二、二十一	山砲兵隊長陸軍少佐 横川止知
十九、五、一	「山号前段」第一期作戰に参加
自六、九	陸軍少尉宮本栄以下五名、初年兵率領者として内地出張初年兵受領後内地出張
至九、八	朝鮮木浦沖に於て戦死
六、三、三	「ト」号前段第二期作戰に参加
自九、九	湘桂作戰に参加
至十二、八	山砲兵隊長、陸軍少佐、福島寛雄
自十二、九	
至二年、天	
二十、五、一	

年月日	概要
五月三十一	土号作戦に参加
五月十三	補充員下士官二名兵二八名補充さる
六月三五	停戦詔書発布
八月十八	復員下令
九月二	停戦協定締結
十月十二	湖北省廣濟景武穴鎮滞留
十一月四、三十	陸軍々曹松尾茂九以下四名一部人員内地帰還の爲北野大尉指揮の下に上海出帆
五月十八	復員の爲武穴鎮出発
五月三六	上海到着
六月十五	上海港出帆
六月三二	博多港上陸上陸地に於て復員式催行

(72)

0579

独立混成隊二十二旅団独立混成隊二十二旅団工兵隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十七年十一月十七日	軍令陸甲第一〇七号独立混成隊二十二旅団編成下令 編成業務着手
十一月三十日	中華民國南京に於て編成完結
十二月三日	隊長陸軍中尉横林武男以下將校七名（見上一を合七）下士官二十一名 （下士官候補者四名を合七）兵一五〇名
十二月十七日	中華民國廣東省新會縣江門北街移駐
十二月二十三日	廣九作戰に参加
十二月二十九日	湘桂作戰に参加
一月六日	江門道発
一月六日	台山進駐
一月九日	台山進駐
一月九日	廣西省梧州に進駐
一月十八日	廣西省桂平縣潯州に移駐
一月二十三日	廣西省潯州石竜鎮に移駐
一月二十九日	廣西省柳州に移駐石竜鎮—柳州移駐間

18 本 中 支 米 十 一 軍

二十、五、二九	廣西撤収作戦に参加、柳州撤退
十、十二	廣西撤収作戦向全、景、黄、沙、埔に於て停戦
二十一、五、二三	湖北省廣濟景武穴附近に集結復員業務
六、三	内地帰還のため武穴出発
六、十七	上海到着
六、三〇	上海出帆
	鹿児島港上陸

(72)

0581

独立混成中二十二旅団独立混成中二十二旅団通信隊部隊略歴

年月日	概 要
四月十七、十三、十	軍令陸甲中一〇七号独立混成中二十二旅団編成下令
十三、十五	編成業務着手
十五、二十	中華民国南京にて編成完結
二十、二十	隊長陸軍中尉渡部玄蔵以下將校七名（見士を二を含む）准士官一名 下士官二一名（下士官候補者二を含む）兵一四六名
六月、二十	中華民国廣東省廣東に移駐
二、十六	廣州灣進駐作戰に参加
十九、三、天	中華民国廣東省新会県江門に移駐
六、十五	湘桂作戰に参加
六、十五	江門進發
六、十九	台山に移駐
九、二	台山進發
九、十九	廣東省梧州に移駐
十一、八	廣西省桂平縣潯州に移駐
十二、三十五	廣西省象県石竜墟に移駐
〃	隊長陸軍大尉渡部玄蔵補独立歩兵中七〇大隊長

年 月 日	概 要
昭 三、五、八	廣西省柳州に移駐
五、二九	廣西撤収作戦参加柳州撤退
八、十五	廣西撤収作戦向 省 泉東湘橋に於て停戦
十、十二	湖北省廣濟景武穴に集結復員業務
一、五、七八	内地帰還ノ爲武穴出発
三、五	上海到着
六、十	上海出帆
六、三三	佐世保港上陸

9
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

独立混成第八十八旅司令部部隊略歴

陸軍少將

皆

藤

喜代志

年月日	概	要
昭二十、三、	編成完結の状況	
四、五	編成下令	
	その他 人員未到着及裝備未整備の儘完結せり 行動の概要及其の日時	
二十、四、三九	中華民國廣甯省全縣華石橋に駐屯	
	同地附近の警備	
八、二六	華石橋撤退反駁	
八、三	反駁作戰準備並に同縣城警備	
九、七	徒步行軍に依り全縣出發寒陵—祁陽—耒陽—衡陽—長沙を経て湖北省	
	武昌縣金口鎮到着	
二十一、十五	湖北省武昌縣金口鎮に集結同地に在りて復員業務に従事	
五、四	統作命令五、六号に基き帰還輸送業務に従事	
五、九	乘船金口鎮出發漢口を経て同年五月十一日南京着同時上陸	
五、十三	南京出發	

19 外 中 支 第十一軍

五十五	上海着
五十八	部隊一部上海出帆
六七	博多上陸
六十二	同日除隊召集解除(三二一名)
六十三	部隊主力上海出帆
六十五	佐世保上陸同日除隊召集解除(二五名)
七十五	山崎中佐以下三名浦賀上陸同日除隊召集解除
	部隊行動概要
	独立混成中八十八旅団司令部(一部)
	陸軍少佐 山田房二
	行動概要
三五五	上海に於て主力と分離
三五五	上海に於て乗船(「V.O.九五号」)同日一八〇〇 上海港出帆
六一	博多港入港
六七	上陸
	同日一四、三〇 復員式終了
	兵力 二二一名
六八	残務整理の趣山田少佐二名 二日市到着

六十

残務整理終了

(77)

0586

独立歩兵第五百十九大隊部隊略歴

大隊長 陸軍大尉 三輪倉三郎

年月日	概要
昭和四	縮成完結の状況 軍令陸甲第十八号に據り縮成下令
四、七	陸軍少佐谷口成男大隊長命課
四、三九	第十三師団よりの縮成要員將校以下五五八名を以て独立歩兵第五百十九大隊縮成完結
自四、三九	行動の概要其の日時
至六、一	廣西省全県黄泥坂及亭里村に在りて全県附近警備
自六、一	湘江右岸地区の掃蕩
至六、二十	廣西省全県亭里村に在りて全県附近警備
自六、三十一	廣西省全県界首西地方地区に於ける反撃戦闘並に反撃作戦
至八、十三	停戦詔書発布
八、十四	

(78)

0587

乙内 中支 十一年

八千四	大隊長谷口少佐湖南省邵阳縣邵阳に於て戦死陸軍代理令に據り才三中隊長陸軍中尉兼子良介代理となる
八千五	復員下令
九千二	停戦協定締結
十千九	湖北省武昌景金P才六戦区才十一日本官兵管理所に入所内地帰還乗船特期のため象結
十一千五	陸軍大尉三輪倉三郎大隊長命課
五千八	内地帰還のため金P出発
五千五	内地帰還乗船の為上海市外江湾集結
五千七	上海港出帆
六千二	鹿児島港上陸復員式挙行大隊の編成をとく

(79)

0588

独立歩兵第五百二十大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和	
三、十八	軍令陸甲第十八号に基き編成改正下令
四、十九	編成改正着手
三、十五	編成の概要
四、十九	部隊は中華民國廣西省に在りて警備中第十三師団の一部を以て編成を命ぜられ 同省及貴州省境より編成
自四、十九 至七、十二	基幹要員 部隊編成要員は盛次同省全県に集結し三十四師団長の隷下に入り 一部は中十一軍隷下に入り一部は中十一軍隷下部隊を補充せられ天長の佳節に 編成を完結せり
	警備
	編成完結と同時に廣西省全県周辺警備中の中三十四師団と警備交代を命ぜられ大 隊い同師団轄重隊より全県東地方地区の警備を継承し一部を放田直轄として全県 西南方白沙附近に至らしめ鉄道、軍公路、橋梁の守備に任し其の完遂を期する と共に教育訓練に従事す 中一次補充

(80)

0589

20

外

中支

中十一軍

六、九

六十三師團要員として遼反中の初年兵五九一名を全県に於て補充を受く
警備地交代

六十四

敵田命令に基き全県西南方十軒附近に移動五福肉附近の警備を命ぜらる大隊は
主力を山嶽地帯の一部を以て後方鉄路 軍公路の守備に任せしめ陣地構築に重
点を指向し、教育訓練と相俟て警備の岩壁を期せり

警備並戦斗、反撃作戦

自七、十二
至八、十三

軍主力は某方面叛進のため廣田前線を反戦中敵は柳州、桂林を攻撃し一部を以
て全県地区に進出軍の後方遮断を企画し七月十二日頃より六十六軍を以て此の
任に當せしめ遂次大隊警備正面に進出するに至る七月十三日夜より其の一部は
我が陣地に攻撃し未り七月十四日より主力の攻軍を受け七月十五日遂に我が陣
地に侵入し来る大隊は約八軒に亘る陣地を確保し要く之を擊退しありたるも敵
は六十四師、六十四師の二ヶ師を以て反撃攻撃し大隊各據点の一部は悲壯な
る玉碎し一時紛戦状態に入るも能く其の任を全し敵を平地進出しめす奮戦中敵
田命令に依り平地守備に転じ反撃を準備中敵田を完全に掩護し全県地区に集結
を命ぜらる大隊は遂次兵力集結を終り追属する敵に反撃を加へつゝ八月十三日
全県北方地区に集結を完了せり

(81)

0590

年月日	概要
昭三、八十四	全隸北方地区に集結せる大隊は全隸城諸部隊撤退を掩護し同地守備に任し在り
八十七	しか大詔喚発の報に接し遂に停戦の止むなきに至り
八十七	集結のため反駁行動概要 大隊は軍及敵田命令に基き八月十七日夜全隸を撤し向等の抵抗を受くること無く先づ黃沙、鋪地区に集陽、衡陽、長沙兵州を経て十月四日武昌景金口鎮地区に集結を完了せり
十、四	金口鎮に於て兵器馬匹を中国側授受しとして外一步を踏出せり此の向中国側の指示に依り主として道路作業に従事し遂次内地帰還の諸準備を促進せり
二十一、五、八	内地帰還の爲の行動概要
五、九	武昌景金口鎮より乗船
五、九	南京着
十二	汽車輸送に依り
十三	上海着乗船待機せり
十五	乗船地及年月日
五、二十八	上海
六十五	上陸地反年月日
六十五	鹿尾島
六十五	帰還人員 三一四名

(32)

0591

内 中支 十一月

独立混成第八十八旅団歩兵第五百二十一大隊部隊略歴

年月日	概 要
昭三、四、二十四 四、三十	<p>編成下令 編成完結 編成地 中華民国廣西省全縣龍水 編成下令より結成完結まで 歩兵中二百十六連隊長編成担任官として編成に着手 大隊編成要員主力は中十三師団(宣山縣)より充当せらる 初年兵(現役兵)は編成当時湖南省衡陽地区を全縣に向へ前進中 四月二十五日中十三師団より充当要員は四井行治以下六一五名及馬匹三五頭到着 四月二十八日陸軍中尉小沢俊夫の引率する現役初年兵五六七名 (半馬出陣兵一〇〇名含七)到着 兵科見習士官春藤仁一郎の引率する現役初年兵三十名到着 馬七四〇頭到着</p>
六、十六 六、十三	<p>中十三師団よりの転用兵添は八十二耗迫撃砲二門九二式重機銃にマキシム機銃六、小銃七五にして其の他は四月二十七日より充足せらる輸重車輛は中十三師団より充用</p>

年月日	概	要
四 三		制式兵器と押収兵器との比は二(三)なり 人員の九割馬匹の三割兵器弾薬の四割を充當するに止まり只管備成地に訓練の 精到を期す
五 十		兵器弾薬約八割の充足を觀
五 十四		歩三十四師団歩兵中隊二百十六連隊との警備交代を命ぜらる
五 十五		警備反戦闘 正午前警備隊たる歩兵中隊二百十六連隊より受継別紙要図の如く配備完了す同時 歩兵中隊五二〇大隊の一中隊を指揮に入らしめらる
自六、三 至六、六		警備地区肅正討伐のため大隊長望月大尉以下三六〇名の兵力を以て主として龍 水以北の掃蕩を行ふ
自六、九 至六、三十		向全縣東南方湘江右岸地区の討伐を命ぜらる大隊長以下六三〇名屏山渡掛松山 附近に飯田主力に策應活潑なる行動の下敵に甚大なる打撃を與へ歸隊す
自七、十三 至八、十		我湘桂作戦並攻軍の戦面縮小に追従痛接し来る敵中隊二十六單の勢力は突如興安 以北に溢出し爲に湘陰公路は危殆に墮せり大隊は直ちに赴援を命ぜらる約三萬 の敵に對し出動在嶺先田洞風嵐南岩附近に於て奮戦決定的打撃を與へ敵を連 戦に陥らしめ歴戦兵団を凌駕赫々たる戦費を獲せり
八 十一		歩十一軍は概收全縣以北に撤退を完了し追尾し来る敵を反撃すべく大隊は歩五 十八師団に配屬せられ軍の最右翼山嶽地带より十二日反撃に転じ白沙浦西北側

2/ 外 中支 歩十一軍

八十六	追進薄兩後軍の後衛となり反転常に主動を待リ十五日全廠以北に撤退せり 全廠車站に於て停戦の命あり 停戦より復員迄
八十六	全廠出發 — 黃沙河 — 涇陵 — 初陽 — 衡陽 — 易俗河 — 長沙 — 武昌道 を前進
十四	武昌南方三十五杆金口鎮地区に集中復員を待機す
五十八	同地より乗船
五十五	上海到着
五十八	上海出發
六十四	仙崎上陸後復員式を挙行

(85)

0594

独立混成歩八十八旅団独立歩兵第五百二十二大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和四	軍令陸甲歩十八号に依り独立混成歩八十八旅団独立歩兵歩五百二十二大隊編成下令
四十	独立歩兵歩五百二十二大隊編成業務着手
四千九	華民国廣西省全県に於て編成完結
	大隊長陸軍大尉前田正夫以下好枝二十五名准士官下士官百二名、兵五百九十六名
	全県附近の警備
五三	警備交代の巻中華民国廣西省興安県興安に移駐同日より同地附近の警備
五十二	昭和十九年徵集初年兵五百四十五名補充す
自六至七	湘江右岸地区の掃蕩並に兴安豊川附近の警備向 戦死兵四名
自七至八	界首北方地区の反匪作戰並に單反転作戰に参加
八十	戦死将校二名、下士官一名、兵二十九名
八十五	停戦詔書発布
九二	復員下令
十七	停戦協定締結
	中華民国湖北省武昌县金口鎮に集結

<p>五、一、十六 五、九 五、十五 五、三十 六、八 六、八</p>	<p>半島出身兵五十四名中国側移隊（現地除隊）す 中華民国湖北省武昌景金口鎮出發 中華民国江蘇省上海着 内地船運の越中華民国江蘇省上海出帆 佐世保 港上陸 除隊召喚解除</p>
---	---

(87)

0596

独立混成隊八十八旅団独立歩兵第五百二十三大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和四年九月	軍令陸甲第八十八号に依り独立混成隊八十八旅団編成 中華民國廣西省全県に於て独立歩兵第五百二十三大隊編成 編成完結
五七	第一大隊長 陸軍大尉 前田彦作 全県附近の警備
五十二	警備交代のため中華民國廣西省全県出發
自七、十二 至八、十三	中華民國廣西省義寧縣義寧署同日より同地附近の警備 義寧地区の反響戦斗並に反転作戰に参加
八十四	待戦詔書發布
八十五	復員下令
九二	待戦協定締結
十七	中華民國湖北省武昌縣金口鎮に集結
千三、千	第二大隊長陸軍大尉練山栄次
五九	中華民國湖北省武昌縣金口鎮出發
五十五	中華民國江蘇省上海着
五三、八	内地帰還のため中華民國江蘇省上海出發

22

外

中支

第十一軍

(88)

7026

0597

六十五 鹿兒島港上陸
六十五 復員完結

(89)

0598

独立混成第八十八旅団砲兵隊部隊略歴

陸軍大尉 佐藤 泰司

年月日	年月日	概要	要
	昭千、四 四、五九	編成完結の情况 軍令陸甲中十八号に依り独立混成中十八旅団編成下令 独立混成中八十八旅団砲兵隊編成完結	
	自四、三五 至五、九	兵打、大隊本部 四〇名 第一中隊一七三名 第二中隊一七三名 行動の概要及日時 全縣附近の警備	
	自五、十 至六、十	咸水郷に移駐余留村に在りて全縣附近の警備	
	自六、十 至六、十	湘江右岸地区の掃蕩に参加	
	自六、十一 至七、十一	咸水郷に在りて全縣附近の警備	
	自七、十二 至八、十三	界首西北方地区の反響戦闘並に反響作戦	
	八、十四	停戦證書発布	
	八、十五	復員下令	

ひ 内

中 支

中 十 一 軍

(90)

0599

九、二	停戦協定締結
十、五	湖北省武昌縣金口鎮二部敗退結
手五、九	内地帰還のため金口鎮出発
五、十四	上海到着
五、二十六	上海出発
六、二	佐世保港上陸
六、二	復員式挙行

独立混成第八十八旅団工兵隊

工兵隊長

陸軍大尉

大林清治

年月日	概要
昭三十四、三九 自四、三九 至七、三二	<p>編成</p> <p>廣西省全縣白沙鋪に於て完結</p> <p>全縣附近の警備</p>
自七、十三 至七、三五	<p>作戰參加</p> <p>界首西北方地区の反撃戦闘</p>
自七、三五 至十、四	<p>反叛作戰</p> <p>湖北省武昌縣金口鎮に集結</p>
五、八 五、二二 六、七	<p>内地帰還のため金口鎮出発</p> <p>上海出帆</p> <p>博多上陸</p>

23
外
中支
第十一軍

(92)

0601

独立混成中八十八旅団通信隊 部隊略歴

陸軍大尉 兼山 栄次
 陸軍中尉 河野 善助

年月日	概要
昭和二年三月十八日 三十八	部隊編成完了日 復員完了日
千九百二十年	編成完了の状況 軍令陸甲中十八号に依り昭和二十年四月二十九日廣西省全県北環家に於て、旧中三十四師団長陸軍中将健雄編成擔任官となり、主力は電信中十三聯隊、一部は中十三師団中三師団より編成される。
自四月十九日 至六月十日	行動の概要及其日時 全縣附近の警備
自六月十一日 至六月二十日	湘江右岸地区の掃蕩
自七月十三日 至八月十三日	界首西方地区の反響戦闘
千九百二十一年 自十月四日 至五月八日	復員下令 湖北省武昌縣金口鎮に集結完了、第十一官兵管理所に於て復員待期

(23)

0602

